

にぎわい

—日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信—

レポート

★ 日本海の一年 ～ イベント～ ★

日本海沿岸とその周辺では、一年間を通じて様々な催しが行われています。今回はその催しの一部を紹介してみたいと思います。

この他にも沢山のイベントがあります。九州や山口にお立ち寄りの際は、是非イベントに参加してみてください。

●三月中旬 春一番 風のフェスタ（長崎県郷ノ浦町）●

「春一番」。1997年には2月28日（旧暦1月18日）、1998年には2月9日（旧暦1月13日）夜から10日（旧暦1月14日）朝、1999年には3月5日（旧暦1月18日）、このように2月から3月に吹く暴風のことです。別名「春一」「カラシ花落とし」とも呼ばれる、この春を呼ぶ風を漁民達は大変恐れました。この風が吹き通らぬうちは、落ち着いて沖に出られなかったからです。

元居浦は延縄漁を主とし、五島沖の喜三郎曾根は鯛の好漁場といわれ、月に一度か二度天候を見定め、4・5人組の小型漁船で出漁していました。

安政6年（1859）旧2月13日は快晴で、格好の出漁日和で、ほとんどの漁船が喜三郎曾根に出漁、延縄をはり始めました。ところが、一船が南の水平線に黒雲の湧き昇るのを発見。「春一だ」と叫びました。全ての舟が、延縄を切り捨てて帰帆の準備にかかりましたが、強烈な南風は海上を吹き荒れ、小山のような怒涛が漁船に覆いかぶさり、漁民達53名はなすすべもなく、舟もろとも海中に消えていったのです。

元居浦では、その後「五十三霊得脱之塔」を建立し、毎年、旧2月13日は、どんなに天候がよくても沖止し、漁民等一同が集まり海難者の冥福を祈念することとし、今日に及んでいます。昭和63年3月には「春一番」イベント実行委員会が結成され、春一番イベント「風のフェスタ」が始まりました。

メインイベントは、和舟による“舟グロ”です。昔、壱岐の沿岸漁業や海上交通の主力であった、和舟を利用したの押櫓競漕・舟グロを復活させることにより、海の男の迫力とたくましさ、海洋民族・壱岐の伝統的漁業と風俗を表し、「海」を起源とする言葉としての「春一番」を強くアピールします。

（和舟2隻で競漕 1チーム5名4丁櫓）



「舟グロ」の様子

《問い合わせ先》

郷ノ浦町企画財政課企画係 春一番イベント実行委員会
TEL : 09204(7)1211

● 7月4日 国境マラソン in 対馬(長崎県上対馬町) ●



「国境マラソン in 対馬」の様子

「日本の渚百選」である三宇田浜をメイン会場に開催される、「国境マラソン大会 in 対馬」は今年で第三回目を迎えます。町が出資した第三セクター会社「対馬国際ライン」の旅客船で、毎年、韓国からもランナーが参加するなど、国際色豊かな大会となっており、サザエ・イカなどの海産物や、名物の焼き肉などのサービスは、参加したランナーにも大好評です。

《問い合わせ先》上対馬町企画観光課 TEL : 09208(6)3111

● 8月第一土・日曜日(2日間開催) 対馬ARIRANG(アリラン)祭り(長崎県厳原町) ●

対馬藩主19代 宗 義智(そう よしとし)、20代 宗 義成(そう よしなり)が築いた対朝鮮との交易基盤(草梁倭館(そうりよわかん)設置・朝鮮通信使招聘等)により第21代 宗 義真(そう よしざね)公は豊かになった藩の財政で阿須川河川切替え、お船江(おふなや)築造、島内主要水路の開削、中矢来(なかやらい)築堤など各種の大型事業に着手し1689年(元禄2年)には完成をみるにいたり、さらには藩子弟の教育を目的とした藩校「小学校」を開き、藩儒として「雨森芳洲」(あめのもりほうしゅう)を招聘するなど当時としては画期的な藩運営を積極果敢に推進し、安定した人心の信頼を得て、宗家10万石の城下まちづくりはゆるぎないものとなりました。

この基盤整備が江戸・明治・大正・昭和と時代を経ながら対馬の島勢活性化に大きく寄与した事績を史実として讃えようと、昭和39年(1964年)夏より厳原町商工会が主体となって、義智公、義成公、義真公の功績と遺徳を偲ぶとともに商工業及び観光の発展振興を目的として、対馬夏の風物詩『厳原港祭り』が開催されるようになりました。

内容的には時代を反映し、変遷を重ねてきたものの仮装行列、花火大会、郷土芸能あるいは民俗・



「対馬アリラン祭り」の様子

風俗の紹介、近年では交流と出会いの場として、対馬で最大、最長の歴史を有するイベントとして若者（町商工会青年部）が中心となって企画、運営、実行に当たり、時代を先取りしたプロデュースは好評を博しています。

昭和55年には朝鮮通信使行列振興会も発足し、同時に韓国から舞踊団も来島するようになり、江戸時代260年間に12回来日した隣国・朝鮮からの善隣友好の大文化使節「朝鮮国信使」一行を対馬藩が江戸まで案内・警護した史実を「時代絵巻」として『朝鮮通信使行列』を忠実に再現しており、現在では祭りのフィナーレを飾るメイン行事として位置づけられ、韓国関係者の支援と理解を受けるまでになりました。

昭和63年には、祭りの再編が持ち上がりメインタイトルとして『対馬アリラン祭り』と呼称を増やし、韓国における89年の海外渡航自由化も要因となり韓国人観光客が多数来島し、祭りに参加するまでに至り今日の国際的なイベントに発展しました。ちなみに韓国内の関係者からは『対馬島アリラン祝祭』と親しまれており国際親善交流の檣舞台として評価され、来島者の宿も確保できないくらいの活況を呈しています。

● 10月15日 勝本港まつり(勝本町浦部) ●



「勝本港まつり」の様子

漁船600隻を有する勝本港での大漁旗で満船色に彩られた漁船の海上パレードは勇壮。

仮装行列も町内を練り歩きます。

《問い合わせ先》

勝本町観光協会 TEL : 09204(2)1156

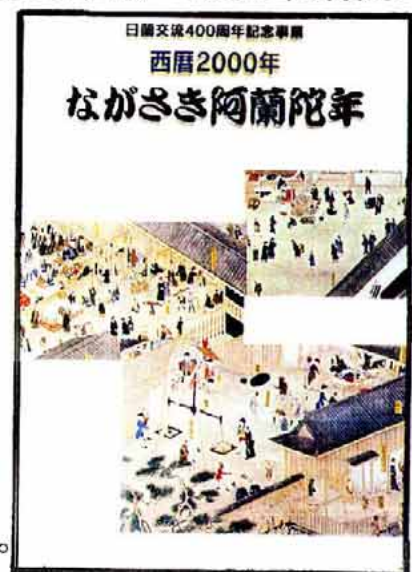
勝本町水産商工課 TEL : 09204(2)1111

●その他 ながさき阿蘭陀年（日蘭交流400周年記念事業）(2000年1月～2001年3月) ●

わが国とオランダの交流の歴史は、西暦2000年に400周年を迎えます。日蘭両国では、この節目の年に様々な記念事業を開催する予定です。

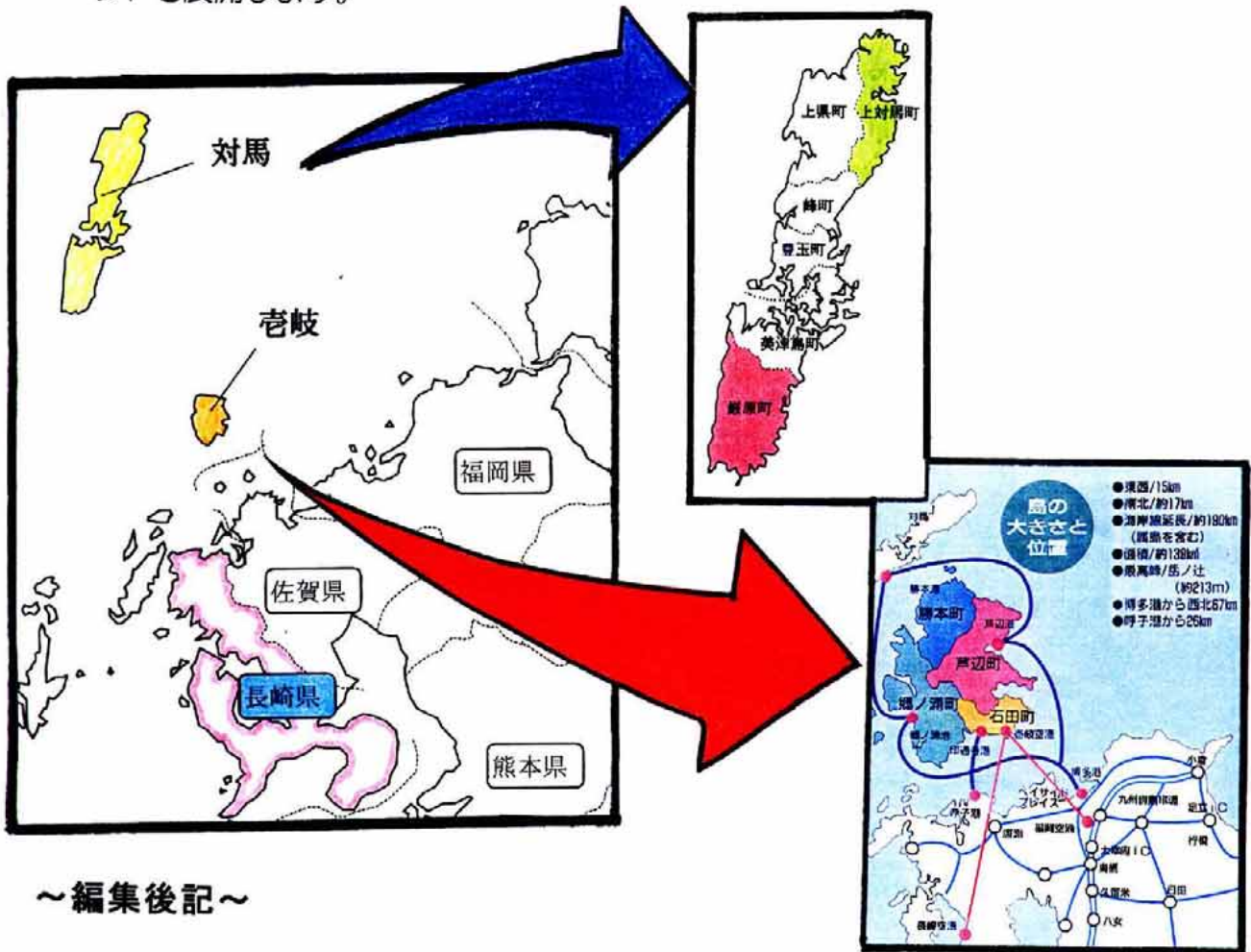
わが国の中でも、とりわけオランダとのゆかりが深い長崎県では、西暦2000年を「ながさき阿蘭陀年」と位置づけ、関係市町等と連携して多彩なイベントや交流事業を展開します。

- ・県民参加のもと「ながさき阿蘭陀年」にふさわしい多彩なイベントを事業期間を通じて、断続的に開催します。



ながさき阿蘭陀年

- ・イベントは既存施設を活用して実施するほか、記念事業の拠点となる常設会場を設け、にぎわいと交流の場を創ります。
- ・ハウステンボス、長崎オランダ村では、例年にもまして、オランダ色の強い記念イベントを展開します。



～編集後記～

第四港湾建設局海域環境課に新規採用となって初めてまかされた大仕事がこの「にぎわい」を書くことでした。今までの会報に一通り目を通して、どんな記事にすればよいか検討して、…まさに手探りの状態でしたが、会員の方々の多大なご協力がありましてなんとかここまでたどりつきました。今回は九州・山口各地のイベントについてとりあげましたが、お役に立ちましたでしょうか？これからもっと精進して皆さんの役に立つ、楽しい記事を書いていきたいと思えます。「日本海に関するこんな情報を知りたい。」「この県・市町村はどんなところ？」など、どんどん意見をお寄せ下さい。「にぎわい」を読むことで、皆様がもっともっと日本海に興味を持たれ、日本海を「好き」になってくだされば幸いです。

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局

第四港湾建設局 海域環境課

TEL 0832-24-4129

FAX 0832-28-1310